現在進行中

「府中の家」刻みが始まりました　　施工：渡辺工務店

作業小屋に桧の丸太と、六寸角の桧の大黒柱が届きました。
「府中の家」の架構を支える構造材です。素材のよさが、つくり手の意欲を掻き立てます。
古い蔵戸、焼杉、屋上庭園、様々な趣向を凝らした、なつかしくてあたらしい木組の家です。

建方見学会　新年開催予定
2010 年 1 月20日～23日

メンテナンス情報

「越谷の家」外部木部塗装　　施工：渡辺工務店

「越谷の家」が、竣工 11 年目で外部塗装のメンテナンスを実施します。外壁はそのまま、木部を中心とした塗装工事です。越谷市建築景観賞（1996年）に輝いた建物の化粧直しです。

書評「木造軸組構法の近代化」

「木造軸組構法の近代化」
著者：源 愛日児
中央公論美術出版

伝統構法と在来工法

私達がいま造っている家は、はたして日本の伝統を受け継いだ構法といえるのだろうか。
現在、国土交通省では「伝統的構法の設計法及び性能検証実験実施委員会」を構成し、伝統構法の構造安全性の見直しを進めている。この時期に、この本が刊行されたことは実にタイムリーであり、伝承の世界に見え隠れしていた日本独自の構法を構造面から知るうえでも大変示唆に富む一冊といえる。筆者はかねてより木組の接合部についての研究で知られているが、本書は洋風建築の修理工事報告書から文献調査を行ない、明治初期より建てられた洋風建築による構法・部材の時代的変遷を描いている。
とくに濃美地震（明治 24 年）を契機に、後に在来工法と呼ばれる木造軸組の近代化の中で、当時の外国人建築家や学士建築家による洋風建築の施工技術が及ぼした影響について知るには絶好の分析であり、阪神大震災後の木造住宅の耐震に苦慮している方々にとっても必読の書である。
本文では、日本家屋に一般的に使われている部材、土台、胴差、筋違の発生が、洋風建築からの移行であったこと。間柱の導入や真壁構造において筋違と共存しがたい部材として貫の衰退が始まったことなど、洋風建築を論じながらも日本の伝統構法と在来工法との違いを明らかにしてくれる。

開放的かつ耐震的な日本の家

また過去においても、地震の度に構法の変革が唱えられ、西洋では耐風性能とされてきた「三角形不定の理」としてのトラス構造が、地震国である日本では耐震性能として位置付けられたこと。金物も当初は、仕口の欠損を補う意味で使用が推奨され、筋違以外の多様な工夫も試行されてきたこと。壁体の必要性から耐震壁の概念が生まれ現在に至ったが、大工に理解されなかったことなど、筋違の成立までの紆余曲折が描かれている。
なかでも興味深いのは「家屋耐震構造論」を書いた佐野利器らが大正 6 年からすでに仕口の実験を始めており、日本人の生活の慣習を重視し家屋の開放性に応じようとしていたことである。それに対して「耐震建築問答」を書いた田辺平学らは、洋館のような縦横に壁を必要とする論を展開した結果、現在に至るまで開放型の伝統軸組の改良に対する試みは充分でなかったなどの記述があり、現在に至る木造軸組の問題点と課題が確認できる。

これからの構法

私達はこれから日本の家をどうつくるべきなのだろう？
国土交通省が行なったEディフェンスの実大実験結果を、構造安全性はもちろん、日本の気候風土と生活文化に根ざした視点からも解析し、日本各地で伝統技術を継承してきた大工達の意見を組み入れ、低炭素化、循環社会に合致する伝統的木組の優位点を踏まえて検証し、これからの未来を築く構法としての新たな位置づけを望むものである。

新建築「住宅特集」 2009 年 11 月号掲載　　松井郁夫

COMINET LIVE
Communication Network for Live

2010　正月　no. 49

株式会社
松井郁夫建築設計事務所
まちづくりデザイン室
165-0023
東京都中野区江原町 1-46-12-102/203
TEL 03-3951-0703 FAX 03-5996-1370
URL　http://matsui-ikuo.jp
e-mail　ok@matsui-ikuo.jp

あけましておめでとうございます
新年を迎え、みなさまが幸せでありますように
今年もよろしくお願いします

おかげさまで 25 年

新年あけましておめでとうございます。

おかげさまで、松井事務所は今年で 25 年目を迎えます。昨年来、世界に吹き荒れる風は、建築界にとって逆風ではありますが、この風は、これまでの産業経済のあり方に対して、地球環境に配慮した方向への転換を迫っているものと考えられます。当事務所は開設以来、自然の無垢の木を使った伝統的な「木組の家」づくりに取り組んで参りましたが、まさにいま、その取組が見直される時期に来ました。

国産材を使い職人が腕を振るう木組の家づくりは、低炭素時代を担い、循環型の環境をつくるうえで、これからの未来を支える社会的な仕組みであると信じています。

無垢の木や漆喰の壁などの持つ、丈夫で開放的な空間の魅力は、住む人の心を豊かにします。また、山の木を育て、伝統の技術を活かしながらの家づくりは、地域や人を元気にする家づくりです。地元の木と手づくりにこだわる木組の家づくりには、多くの職人さんたちの活気があふれています。

私たちは、これからも明るいみらいをつくるために、美しい日本の風景をつくり、みんなが共存共栄できる成熟した社会を目指して、「木組の家」づくりを進めてゆきたいと思います。

「シンプルモダンな木組」
100 棟目の集大成

おかげさまで松井事務所の家づくりも 100 棟目を迎えました。手づくりを大切にし、シンプルでスタンダードな木組を大事に設計してきた 25 年間の集大成です。
「清瀬の家」は、日本家屋特有の優雅で深い軒に、和船の技術である「せがい造り」を組み合わせました。徳島の杉とみやま桧、土壁風の外壁と、室内は漆喰塗りで仕上げています。金物に頼ることのない伝統構法の家です。
美しい風景をつくる日本の家を、これからも一棟一棟大切につくり続けていきたいと思います。
完成おめでとうございます。

所在	東京都清瀬市	設計監理	松井郁夫建築設計事務所
構造規模	木造2階建て	施工	渡辺工務店
建築面積	148.49 ㎡	材木	TSウッドハウス協同組合
延床面積	215.13 ㎡	写真撮影	奈良岡 忠、松井事務所